



発行日 令和2年 7月 1日 下田部保育園

日増しに暑い日が続くようになってきました。梅雨が明けると、いよいよ夏本番です!!!  
毎日元気に外で遊ぶ子どもたちには、十分な休息と栄養・水分補給などが大切です。  
三食きちんと食べ、睡眠をしっかりととり、早寝早起きをして、規則正しい生活を心掛けましょう。  
そして、これから訪れる暑い夏を楽しく元気に乗り切りましょう!!!



☆≡7月7日は七夕です☆≡



七夕に関する言い伝え

昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなってしまいました。怒った神様は、2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら1年に1度だけ2人を会わせてくれると約束しました。それから2人は心を入れ替えて一生懸命に働くようになったのです。そして2人は年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。(諸説あります。)



七夕に関する不思議



七夕には、細長く切った紙や木に願い事を書いて笹に飾ります。織物の上手な織姫にあやかって「物事が上達しますように・・・」とお願い事をしたのが始まりと言われてます。  
笹の葉に飾ると、織姫と彦星の力で願いがかなえられたり、みんなを悪いものから守ってくれるという言い伝えがあるのだそうです。今年の七夕には「苦手なものも食べられますように…☆」「毎日美味しいごはんを食べることが出来ますように…☆」など、ご家族で“お願いごと”を短冊に書いてみませんか？

なぜそうめんを七夕に食べるの？

そうめんのルーツは、中国伝来の「索餅（さくべい）」という麺料理だといわれています。「索」には「縄をなう」という意味があり、縄のように編んだ小麦粉のお菓子のようなのだと考えられています。では、なぜ七夕にそうめんを食べるようになったのか？その由来はとても古く、古代中国までさかのぼります。その時代の7月7日に、帝の子どもが熱病で亡くなられたそうです。そのことが発端となり、熱病が流行ったとされました。そこで、生前にその子が好きだった「索餅」をお供えしたところ、熱病がおさまったという伝説が伝えられています。その「索餅」が奈良時代に日本に伝えられると一般にも広がり、同じ小麦粉で作られた細い麺「そうめん」が食べられるようになりました。このようなことから「7月7日に索餅（そうめん）を食べると1年間、無病息災で過ごせる」と言い伝えられているそうです。(諸説あります。)

